



やぐわえ

第35号

今期運動方針

会長 小野 貴 嗣

東京都神道青年会は天皇陛下・皇后陛下御大婚六十年の佳き歳に創立三十五周年を迎えました。先輩諸兄の御指導・御支援を頂き、会員の意気と情熱と友情とによって手作りの周年事業が展開されましたことは、青年会活動の根幹である一人一人の力の結果が出来たことだと思えます。

青年会活動の発会の指針たる「皇室・国家の護持、神社神道の興隆、青少年の教化育成、一、会員相互の研鑽と親睦、に思いを起し連綿とした運動を展開して参る所存です。

本年は今上陛下御在位六十年の奉祝の歳であり、畏れながら国を挙げて奉祝の誠を捧げたいとの思いが満ち溢れて居ります。奉祝運動が単に神社関係者だけではなく、広く一般の人達の奉祝の声を陛下に捧げる事業を考えて参りたいと思えます。

「我が国が国家として存立し、人権や自由が抑圧されないうで、より質の高い繁栄と伝統文化を踏まえた生活を望んで二十一世紀につなごう」と国民が願っている現在、本宗と仰ぐ伊勢神宮の遷宮奉賛活動を通して日本の基を再確認し、サイパン島慰霊祭にみられる戦没者慰霊祭を継続して斎行し、英霊をお慰めすると共に世界平和の大切さを認識し又、戦後の苦難を乗り越えて今日の日本を創り上げた人々が高齢化していく社会に青年神職として何が出来るのかを真剣に模索し、行動に移していく体制を整える必要を切に感じます。

青少年教化育成に関しては、私共は「生き生きとした日本」「調和のとれた精神社会」の実現の為の一環として心を砕いて行かねばならないと考えます。この二つを実現するには一人一人がバランス良く成長し、高い自覚のもと、自発的に個性を発揮する時に生まれる活力が源泉と考え、社会人としての資質を磨き、人間性の向上を図りつつ、青年の環を広げて運動を展開して行きたいと思えます。

私達青年神職は四十歳以下だから青年という名を付けているのではなく、志を抱いてその実現の為に苦しみながら挑戦してこそ青年たる資格を持ち得るのであり、神道青年会は、志を同じくした青年が相集い、時代に対する自分達の役割と責任を見つめ、首都の青年会として全国の青年会の手本となるべく、又全国の活動のペースメーカーとして、力を合わせて行動してこそ独自の運動が出来得ると確信しています。この運動の最大の力となるものは、会員相互が互いの人間性を尊重し研鑽に励み親睦を図りつつ、心を通わせて和を創り出した上での力強い連帯感だと思えます。

私達の神道青年会が素晴らしい日本の明日への創造に可能性を秘めた若者らしい躍動感と緊張感と温かい心のふれ合いの溢れる場であることを切望し、その為に持てる力を如何なく発揮していこうではありませんか。



昭和六十年 臨時總會開催

会長に 小野貴嗣君

副会長に 北川憲史君
能円坊明彦君

四月九日、神社庁に於て昭和五十九年度東京都神道青年会定時總會が開催され、押見会長挨拶に続き議題に入り昭和五十九年度事業報告並びに同決算報告・監査報告が異議なく満場一致にて承認された。引続き任期満了に伴う役員改選の件に入った。押見会長より小野貴嗣君を推薦する旨が述べられ一同異議なく賛成承認された。

小野新会長はただちに役員人事に入り、左記の通り発表した。副会長に北川憲史君・能円坊明彦君、議長に香取邦彦君、総務部長に長谷川康夫君、教養部長に森山晴男君、教化部長に鈴木有司君、広報部長に中田憲文君、事業部長に山口直英君、庶務に細野政和君、大石定道君、会計に阿部明徳君を指名一同の承認を得た。

五月十三日神社庁に於て小野会長のもと初の役員会・委員会が開催され、今期運動方針案、今年度事業計画案、同予算案を審議作成に入った。

五月二十二日、同所に於て臨時總會が開催された。開催に先立ち国学院大学教授で書道家の中島司一氏による

「書の心」と題した講演が行われ、引き続き第に則り神殿拝礼、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和、会長挨拶があり、議事に入りまず監事就任承認の件につき審議され、小俣宗昭・伊藤孝夫・大野二良三氏が選出承認された。続いて、今期運動方針、今年度事業計画、同予算について審議され、これも満場一致で承認され、ここに小野会長のもと新たなスタートを切る事になりました。總會終了後、同所にて直会が行われ、先輩諸兄とのなどやかな歓談の中にも盛大裡のうちに終了致しました。

今期

「スローガン」

心の

かよう

青年会

昭和六十年 事業計画

教養部

- 一、臨時総会・新年会の講師依頼
- 一、禊成講習会開催
- 一、教養講座の開催
- 一、毎週金曜日 雅楽講習会

教化部

- 一、天皇陛下御在位六十年奉祝運動
- 一、国旗掲揚推進運動
- 一、神棚奉斎の推進
- 一、青少年の教化育成
- 一、氏子青年協議会の強化育成と事業への協力
- 一、諸団体への参加協力

広報部

- 一、やくわえの発行
- 一、会員名簿の作製

渉外部

- 一、各道府県との資料情報の交流を確立する
- 一、遷宮委員会の東京小委員会的活動
- 一、健康診断の実施へ向けて

事業部

- 一、ソフトボール大会 7月22日(月・仏)
- 一、家族懇親会 8月19日(月・仏)
- 一、忘年会 十一月下旬
- 一、運動会・体力測定
- 一、健康診断の実施について
- 一、ボーリング大会

新役員所感



会長 小野 貴 嗣

小野照崎神社(台東)

昭和二十六年一月十五日生

天皇陛下御在位六十年の佳き歳に、会長に選任されました事は、洵に光栄でありますと共に、その責任の重大さに身の引き締まる思いを致して居ります。

神青会として今上陛下御在位六十年の奉祝の誠を捧げ、国民への啓蒙運動を展開するに充たり、奉祝の意義が歴史と伝統に育くまれた我が国体の護持にこそあるという点を心に銘じていかなければならないと思ひます。

また八年後の昭和六十八年に迫り来る神宮式年遷宮に対し、御遷宮の完遂を祈念し、総力を結集して国民総奉賛、国民総参宮の意義を啓蒙し、更に神宮の御神徳の宣揚を目指して神宮大麻奉斎家庭の拡大充実を推進する使命を痛感致します。

本会創立以来三十五年を経て、神道青年たる先輩諸先生の熱誠は、本来の使命達成に邁進され、神社神道の顕現

昂揚に奮闘努力されて今日に至ったのであり、特にこの間の建国記念日復活運動、元号法制化運動等は、敬神尊皇精神の昂揚・皇室の尊厳護持への機運を盛り上げ、今日の国民精神昂揚運動の礎となったのであります。

青少年教育育成運動に関しては特に氏子青年協議会の事業の活性化活動に重点を置き、氏青会の環がより拡がる事を念願しています。また、今日の一大社会問題としての教育正常化問題に於ては、教育関係神職協議会との連携を持って対処していく方針です。

会員の皆様への私の考えは運動方針に思いを込めて拙文を綴りましたので一言だけ申し上げます。それは、自身自身の与えられた環境の中で持てる力を百パーセント發揮して、『心の通い合う青年会』を作って頂きたいと思ひますし、青年会活動の中で人生の友を創り出して欲しいという事です。

ともかくにも青年神職としての責任を自覚し、意気と勇氣と情熱とを以つて、心を一つに力を合せ、心のふれ合いを大切にして歩みを進めて参りたいと思ひますので、先輩諸賢の御指導・御支援を賜り、会員の皆様の参加・協力を切にお願い申し上げます。



副会長 北川 憲 史

多摩川浅間神社(大田)
昭和二十四年三月十二日生



副会長 能円坊 明 彦

素 葦 雄 神 社 (荒川)
昭和二十七年一月二十六日生

此の度の役員改選により、小野新会長のもとで二年間副会長をやらせて頂く事になりました。つきましては、諸先輩を始め会員の皆様の一層の御指導と御支援とを賜りますようお願い申し上げます。

さて、我々青年神職は毎日神明奉仕に始まり雑用に至るまで公私にわたり多忙を極めておりますが、だからと言って青年会の活動に無理解であつて良いのでしようか、青年会は一部の青年のみの会ではなく、会員一人一人の意見が反映される場として、青年の力の

結果された会であると思ひます。会員の皆様は自分自身の力を發揮する場として、こんな事言つたら恥かしいと思ふ事なく大いに発言し、大いに失敗する、それが許されるのが青年会ではないだろうか、そしてその経験と智恵を自らのお社に持ちかえり、生かす事が意義ある会のあり方だと思ひます。

それには、各自が自分達の会にどれ程の愛着と認識を持ち得るかです。青年会に於て、青春の若さと情熱を奉仕の精神で貫く事は決して無駄とならない得難いものがあると確信致します。



議長 香 取 邦 彦

香 取 神 社 (江東)
昭和二十二年九月十四日生

週日氏子の人が来社し、色々な話の中でたまたま伊勢神宮の話が出た。私はすかさず日本の伝統及び建築の美を説いた。神宮は言うまでもなく二十一年に一度遷宮をし、その伝統を千数百年の間脈々と受け継いで来た。古代ギリシャに於ては一時エーゲ文明が栄え、美しいエンタシスの建築が盛んになった。しかし西洋では一文明が発達する

には、古い文化・思想・建築の全てを破壊して成り立っている様に思う。以前ドイツの建築家が神宮の御正殿を見て「世界に比類なき素晴らしい建築だ」と称賛し、さらに「この建築様式を寸分も狂わさず何百年、何千年もの間守り伝えて来た日本人に敬意を感じる」と言った事を思い出した。

また、日本には元号という素晴らしい文化遺産がある。千参百余年綿々と受け継がれて来た日本独自の遺産である。「伝統」という言葉を辞典で引くと「昔から受け伝えて来た有形・無形の風習・しきたり・様式」となっている。神宮の遷宮然り、元号もまた然りである。

物の価値が薄れ、伝統文化を無視し、国民道徳の欠如が叫ばれる現在、我々青年神職は今なにを成すべきか真剣に考える秋ではないだろうか。



総務部長 長谷川 康 夫

奥 沢 神 社 (世田谷)
昭和二十四年五月二十八日生

私が初めて青年会の役員会に出席したのは、現相談役の川合先輩が会長に

なら まだ間もない頃であったと思います。確か当時事業部長をなさっていた押見前会長に、ソフトボール大会の資料をお見せする為に出席したのだと記憶しています。

事業部を振り出しに、広報部、次ぎは教化部と毎期ごと担当が変わり、前期の押見会長の時は教化部長をやらせて頂きました。委員だった頃は会議の最中は早く終わる事のみ願ひ、その後の飲食欲談への期待感だけで出席していたようなものでした。今もその気持ちにあまり変わりは無いのですが、内容は随分変わってきたと思います。話し合う相手が何倍にも増えた事もさることながら、今期のスローガン「心のかよう青年会」の通り、心のかよう仲間が多くなった事です。

今期総務の重責を負って、果たして自分に勤まるのだろうかという不安はあるものの、「いや仲間がいるんだ、会員皆で青年会を作って行くんだ。」という初心に帰ってこれからの二年間を過して行きたいと思っています。幸い各部長さんが積極的に事業に取り組みまれているので、自分も一つ一つの事業に力を合わせ、且青年会組織の円滑化に微力ながらも全力を注いで精進する所存です。

青年会を動かすのは会員一人一人の小さな力がまとまってできる大きなエネルギーであると思います。言い古された言葉ですが、まず仲間探しに青年会に参加される事で良いと思います。同職としての何でも話し合える仲間、それが見つかれば青年会に参加した意

義があらかた達せられる。はないかと思ひます。前述の初めて出席した役員会の席上で当時の川合会長から、労をねぎらう優しい言葉をかけて頂いたのを、まだ忘れていません。お互いに声を掛け合って、一つの事業を責任を持ち合い、努力し、協調して作り上げてこそ力強い連帯感が生まれ、新しい友情、またより深い友情が生まれるものと思ひます。

どうぞ「心のかよう青年会」を念頭に置きまして、一人でも多くの素晴らしい仲間を増やし、互いに手を取り合っ青年会の正しい道筋を進めて行くことではありませんか。



教養部長 森 山 晴 男

半田稻荷神社 (葛飾)
昭和二十七年十月七日生

教養部の事業と致しましては、(一)総会・新年会の講演依頼・(二)禊祓成・(三)教養講座・(四)雅楽講習会という事になります。

恒例の禊祓成は七月に武州御獄山に於て毎年開催致しております。学行一致という言葉がありますが、「学」はともかく、「行」つまり禊祓などはその機会がなかなか得られ無いのではない

でしょうか、一泊二日という短かい日数ではあります。日常を離れ精神をリフレッシュして頂きたいと思ひます。教養講座は神社奉仕の上での身近な事柄、又一般教養といった事を皆様の御提案・御意見を頂きながら開催して行きたいと思ひます。

雅楽講習会は毎週金曜日、神社庁に於て全くの初心の方でも懇切に御指導を頂いておりますので是非御参加下さい。

以上教養部の事業について述べさせて頂いた訳ですが、何れも多くの会員に参加して頂き、ただ単に指導を受けるといふ受身の形でなく参加した者それぞれが刺激を与え、又受け、自らが自らの研鑽の場を作っていくようにして行きたいと思ひます。

何卒多くの方々の参加を切望致しますと共に御協力と御指導を御願ひ致します。



教化部長 鈴木 有 司

氷 川 神 社 (板橋)
昭和二十四年六月三十日生

教化部の活動は、私達青年神職が自己の資質向上をはかる為のものであり、同志である青年神職の問題意識啓発の

為の活動でもあります。又、各お社に参拝される氏子崇敬者の皆様に神道をさらに理解して頂く為の啓蒙活動でもあります。

このように広範な活動内容を持つ教化部の活動は一過的な事業活動とは異なり地道な活動の積み重ねを必要としますし、又活動成果が如実に表われるというものでもありません、諸先輩が長年にわたって実践をして来られた活動を更に積み上げる事が肝要であります。具体的には、これまで継承されてきた国旗掲揚推進運動・神棚奉斎推進運動を部内で更に検討協議して、その効果的方法を追求し、実践して行きたいと思えます。又教化部のもう一つの柱である青少年教化育成の活動の一環として、氏子青年会活動に協力・推進して行きたいと考えます。

ごく平凡な事ですが、こうした積み重ねこそ教化活動の要点であるうと思えます。



渉外部長 鈴木 昭 樹

波除 稲荷 神社 (中央)
昭和二十七年十一月十二日生

渉外部と言うと何か部長以外は存在感が無いと、今迄一般に会員に見られ

てきた部だと言うのが正直な所だと思えます。あとは何か会があった時に動員されているという見方くらいでしょう。何せ現在の青年会は行動力抜群なのですから。それに加え、「熱い心」の持主ばかりときています、他の部の催物を手伝う等は当り前、日常茶飯事なのですから。そうなるとなお一層かすみがちだった渉外部、さて本年度からどう致しましょう。

それならば、今流行の「発想の転換」をする事にしました。各部が共同で催が出来る様に、もっと進んでこちらからどうですかと言える様に、やりたいけれどどうしたらいいんだろうという要望に答えられる様に、先ず、(一)他の道府県との資料・情報の収集・交換を徹底して行います。その中には機関誌・通信物の収集はもとよりですが、今回の御選官に関するあらゆる印刷された物の収集をし、一冊の合併号を出して行きたいとも考えています。これには、全会員の御協力を頂きたいと思えます。(二)健康診断の実施に向けて頑張りたいと思っています。

とにかく、皆様お気軽に声を掛けて下さい。"ニュー前だれ商法"の渉外部です。



広報部長 中田 憲 文

氷川 神社 (中野)
昭和二十四年五月三日生

此の度、僭越ながら広報部を担当致す事になりました。僭越と申し上げるのも他ではありません、私は今まで広報部の事業に携わった経験が一切ないからであります。しかし「やくわえ」についての感想は良く耳にしました。

すなわち、もっと教育的見地の高い内容にして欲しい。その為には、教養・教化的なものを盛り沢山掲載し、我々神青会の教典となすべきものにしなればならない。あるいは、「やくわえ」は情報紙なのだから、そう片意地張らず情報交換の場として各神社・各会員のよもやま話をもっと盛り込むべきだとか、各事業報告にしても、ただ単に事実を羅列するのではなく、その中の失敗談などおもしろおかしく書いて欲しい等々。

皆様はどう思われますか、やはり一方に片寄らず硬軟織りませた内容が一番良ろしいのでしょうか、色々御意見もおありでしょうが、少なくとも「何だつまらん」とだけは言われないうようにと部員一同心がけて参ります。

内容の充実を実現する為には、何と申しましても会員諸兄の記事提供が金でであります。皆様の御協力を頂きながら紙面を埋めて参りたいと思えますので何卒宜しくお願い申し上げます。



事業部長 山口 直 英

氷川 神社 (品川)
昭和二十七年五月二十日生

新執行部でスタートした神青会の事業部を担当致す事になりましたが、毎年決める事業計画の最大のポイントは、「どうしたら一人でも多くの会員の方に参加してもらえるか」という事です。これは神青会各部の共通の悩みでもあります。

以前、私自身も神青会に堅苦しい印象を持っていて、参加するまでに多くの時間がかかりましたが、参加してからは多くの同年代の人々と知り合い、語り合う事により、悩み事の相談や各神社の行事の情報交換など、とても有意義な時間と素敵な仲間を持つ事が出来、何故もっと早く参加しなかったのかと思う程でした。参加してみようという気持がなければ何も生まれません。会員の皆様、是非一度参加してみてください。

神青会の各事業計画は貴方の為のメニューです。食べてみるのは貴方です。好き嫌いはあると思いますが是非一度シェフ自慢のフルコースをお試し下さい。特に事業部では貴方の為に楽しい

要領気をプレゼント出来る様に計画を練ってお待ちしています。



庶務 細野 政和

多田 神社 (中野)

昭和二十七年十一月二十六日生



庶務 大石 定道

戸越 八幡神社 (品川)

昭和二十八年七月二十二日生

この度、庶務を担当致す事になりました。「心の通い合う青年会」作りを目指して会員の皆様の御協力の元努めて参りますので宜しくお願い申し上げます。

青年会の会合ばかりではありませんが、他の用事等と重なってしまい二度、三度と会合を欠席致しますと、その会への敷居が高くなり、そして四度目を

欠席すると以後ほとんどその会が遠のいてしまう感じが致します。私も青年会に入会した当初は、青年会に出席する事が、何となく気が重かったものです。しかし、いつ出席しても青年会の仲間として迎えてくれた事を覚えています。そして会が終わった後、皆で雑祭で失敗した事や趣味の事等を一献くみ交しながら談笑するのが楽しみになってきました。内気で無口な私でも一献の魔術により会の雰囲気は溶け込む事が出来ました。決してお酒も強くはないのですが、今では会が終わった後、酒席を設ける仕度を率先してやるから不思議です。



会計 阿部 明德

下谷 神社 (台東)

昭和二十九年四月二十六日生

昭和五十一年、初めて神道青年会に参加させて頂いて以来、今年で早十年になります。この間、良き先輩・同僚

達に恵まれ楽しく会の活動に参加して参りました。

本年は、天皇陛下御在位六十年を奉祝するめでたき年であります。この記念すべき年に、新生役員による我々東京都神道青年会は、若いフレッシュな感覚と現代的な視野を持って神社神道をより深く究明し、互いに手と手を取り合せて内部拡充をはかると同時に、外に向けて明日の神社神道の繁栄の為に寄与すべく努力を続けて行こうではありませんか。



神青協指名理事

大鳥居 武司

亀戸 天神社 (江東)

昭和二十七年二月十九日生

我が東京都神道青年会もさきの三十五周年記念事業等に代表される、輝かしい活動の歴史を振り返りつつ、小野新会長の下に一層の飛躍を期して新年度を迎える中、この度神青協の理事のご指名をいただきました。

平素は何かと多忙を理由に欠席がちなことでもあり、充分なお手伝いが出るかどうか不安も感じますが、会員の皆様のご指導をお願い申しあげる次第です。

神青協及び東京都神青会の活動方針に挙げられる種々の運動は、神青会員としての立場はもとより、日々の奉務を通して念頭におかなければならぬものと考えられます。そしてこれらの活動を通じて会員相互が多くの知己を得ることにも大きな意義があるかと思われまふ。

過日の神青協役員会に新役員として初めて出席した時、曾て三重県の神青会に在籍していた折の先輩と顔を合わせ「やあ、どうも」ということになり、重苦しい雰囲気から少し気持ちの上でも余裕が出てまいりました。

生来堅苦しいことが苦手な身にとってはこのような知人のあることは何よりも頼もしく、次回からの参加意欲も増してきます。そして更には、それからそれへと新しい友人を得、仲間を意識することも神青会活動の重要な部分であり、自己の将来にも大きな価値を生むものと思ひます。

幸いにしてこのような貴重な機会を与えられた訳ですので、新会長を中心に自分の立場を踏まえながら、出来る限りの参加協力を務め、かつ自身の研鑽に心したいと念ずる次第です。



遷宮の心を守り 伝える委員会委員

篠直嗣

氷川神社 (板橋)
昭和三十三年一月五日生

「神宮式年遷宮」という言葉の意味を、素直に理解できる者は、現代に於いては極限られた人々と私共神職以外には居ないと申しても過言ではないと思います。

日本国各地には、それぞれ祖神様(氏神・産土神・鎮守様)が祭られ、その祖神様により私共の生活・生命が守られています。その神々の最高至貴の神であられる神宮の祖神様の御祭に奉賛することは、日本国民として当然のことでありましょう。

「神宮式年遷宮の『ところ』を守り伝える委員会」……私はこの委員会こそ、長くも神宮を盛り上げる為の、つまりは各地の神社の、そして各地の神職の声をより細かに伝え発展への場とし、更には世の人々総べてにその意を啓蒙すべく手段を提案せねばならない場であるべきと考えます。

この世の中、孰れ時代に応じた祭りを興さなければならぬ時も来ることでしよう。遷宮も然り、祭りに新しい風を興し、それにより、神々と祖國を必死で守り通さねばならない時も又来るでしよう。その様な将来の為、この委員会により知識を増し、古の心を受け継いだ上で広く青年神職の立場から、会員皆様の意見・理想・工夫を当局に伝えたいと思います。

私共は「神職」です。神宮遷宮奉賛に於いて、政界・財界等に少しの遅れを取ってはいけません。常に新しい若い頭で進みましょう。遷宮は、神宮神職だけが奉仕するのではなく、その当日、日本国中の神職が奉仕するのであるという意気込みで参りたいと思います。一三〇〇年に渡る伝統と心で受け継がれているこの大事業、その誠の「心の御祭」を努力により奉仕致します。

お知らせ

襖練成講習会

七月十日(水)・十一日(木)の両日、山岳信仰の霊場として著名な武州御岳山に於て恒例のみそぎ講習会を開催致しますので、会員各位を始め各神社子弟の方々もお誘い合せの上多数御参加下さい。

雅楽講習会

毎週金曜日神社庁に於て雅楽講習会を開催しています。三管三鼓の御指導を頂いて居りますので初心者の方もど



四月十五日・十六日

伊東温泉「川良」に於て、押見前会長のもと役員・委員解散に伴う、新旧懇親旅行会が開催された。当日は神社庁より副庁長鈴木先生を始め、先輩諸兄多数の出席を賜り、役員・委員に二年間の労をねぎらう挨拶を頂いた後祝宴に入った。

席上、活き造りを盛り合せた「大漁船」を引く催しや、新旧会長による祝いの「もちつき」等が披露され、又歌や踊りも出て和気合々の中に楽しい一時を過ごした。

うそ御参加下さい。

ソフトボール大会

七月二十二日(月)、恒例となりました各地区対抗親善ソフトボール大会を開催致します。

会員はもとより、神職子弟の参加も可。ご家族そろって真夏の太陽の下で、楽しい一日を過しませんか。

お願い

最近委員の方の委員会への出席率が低くなって来ました。委員会の後には親睦を深める為の飲み会もありますので、どうぞこちらの方を楽しみに委員会に多数御出席下さい。

広報部では、会員の皆様に広く各種情報をお願いして居ります。どんな小さなニュースでもかまいませんので、広報部までお知らせ下さい。

昭和六十年六月吉日

東京都神道青年会

東京都港区元赤坂二―二―三

東京都神社庁内

電話 四〇四―六五二五(代)